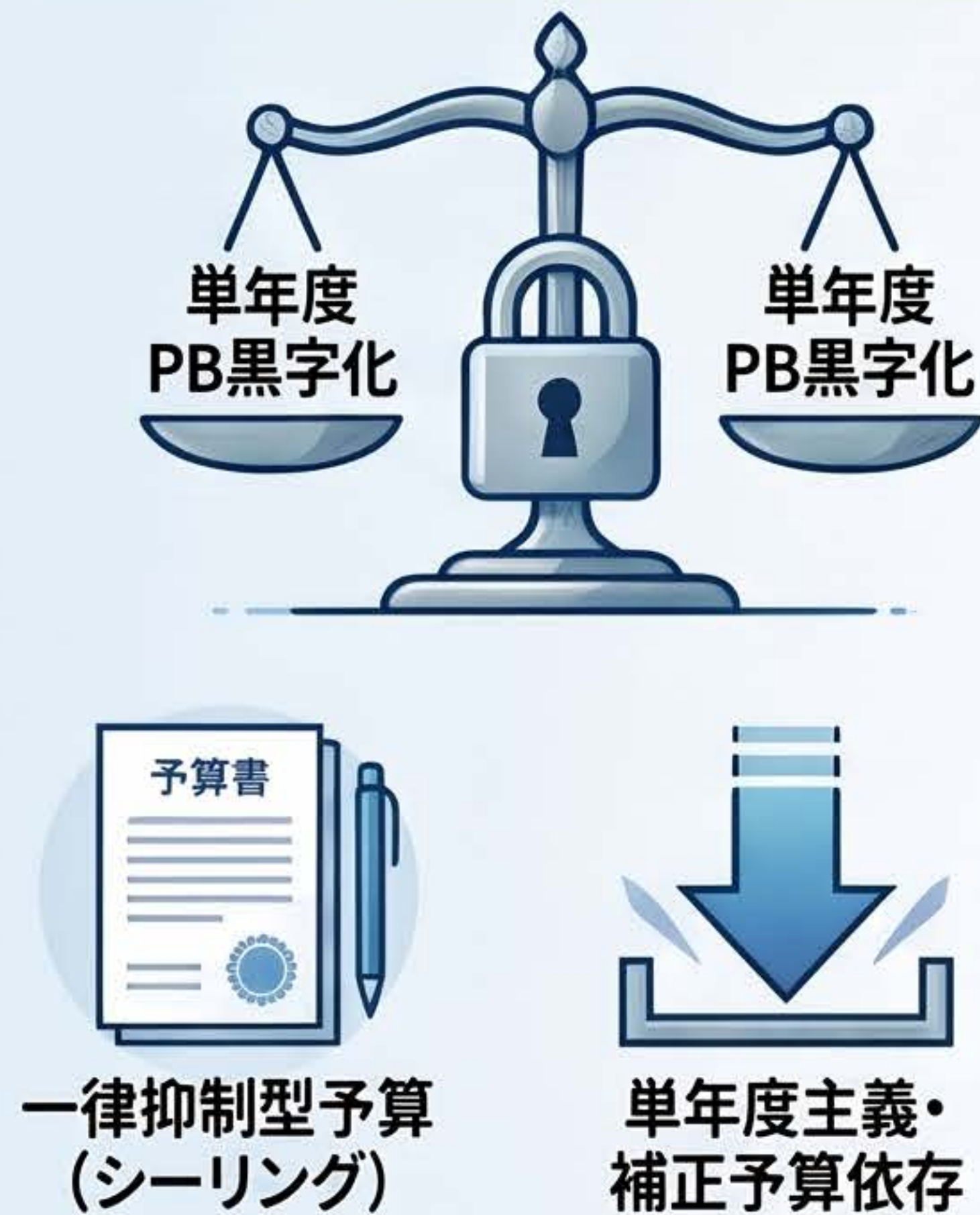


骨太方針2026：財政運営の「コペルニクスの転回」とその衝撃

日本の財政政策が「緊縮」から「積極投資」へと180度転換した背景と、その結果として生じている経済的影響（金利上昇や倒産増）を視覚的に理解させる。

以前のフレーム（～2025）：緊縮財政路線



2026年7月 閣議決定： コペルニクスの転回



新たなフレーム（2026～）：責任ある積極財政

債務残高対名目GDP比ヘシフト
債務残高対名目GDP比の低下、長年度期にも反映して一律年度投資を誘発。

**370兆円超の「官民投資ロードマップ」
AI・半導体等の戦略分野**
新投資枠と「つなぎ国債」を活用し、巨額投資を誘発。

財政健全化から「財政の持続可能性」へ
経済成長と債務コントロールの調和を重視。

市場の反応と実体経済への「摩擦」

長期金利が約30年ぶりの高水準を記録



12年ぶりの「企業倒産5,000件超」



日本銀行の「自主性」への配慮

閣議決定版の脚法に日銀法の独立性・自主性を明記。